

様式第2号

|  |                  |    |        |
|--|------------------|----|--------|
| 視察研修先  | 山口県美祢市議会         | 氏名 | 安孫子 義徳 |
| 視察研修項目   | 美祢魅力発掘隊の取り組みについて |    |        |
| <p>美祢の魅力発掘隊（地域おこし協力隊は人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていく目的）は山口県赤郷地域を「地域づくりのモデル」と見据えた取り組みで、地域内外への魅力発信（地域情報誌、地域カレンダー）地域課題に対する提案・実践を行い、地域活性化を目的とする。</p> <p>地域の方々と交流し、情報発信手段「月刊赤郷こんどこ」を発行し、小学校及び閉校事業実行委員会HP・SNSの作成・運営協力&amp;事務局・地域のカレンダー2019への協力。</p> <p>買い物支援、赤郷周辺買い物ガイド（買い物情報誌）の作成検討。<br/>美東の特産品「西条柿」の栽培プロセスに関する作業。<br/>農地と地域食材と人のつながりづくり。<br/>赤郷夢プランへの協力（交通弱者支援も検討）など数多くの事業に携わる。</p> <p>赤郷地区振興会が隊員の受け入れ先とし、赤郷公民館長、地区副会長により、地域の説明、課題を説明してもらい、その中で会長より地域の「原動力になってほしい」と依頼を受ける。</p> <p>本市においては、田代地区にて地域おこし協力隊が活動を行っている。田代の学びの里TASSHO（たっしょ）における宿泊や体育館などの施設利用、住民レストラン「たしろ亭」などに携わり、田代の自然豊かさを満喫できる体験型プログラムを行い、田代に多くの方々が来てもらえるよう頑張っています。</p> <p>また、他にはグラウンドワーク寒河江の活動支援を通じて、環境保全活動や寒河江駅前でのにぎわい創出イベントの企画運営に携わっている方、スポーツ振興による地域づくりに携わっている方がいます。</p> <p>これからの地域おこし協力隊の課題として、隊員がその地域に本当に溶け込めるか、その地域の魅力を発信できるか、定住など具体的に考えるかなどがあるのではないのでしょうか？ その為にも地域の方々が放置せず、束縛せず（コミュニケーションは必要）隊員との連携強化を行っていかねばいけないと考えます。</p> |                  |    |        |

様式第 2 号

|   |             |    |        |
|---|-------------|----|--------|
| 視察研修先   | 山口県山陽小野田市議会 | 氏名 | 安孫子 義徳 |
| 視察研修項目  | 豪雨災害対策について  |    |        |
| <p>山陽小野田市は、山口県の南西部に位置し南は瀬戸内海、東は宇部市、西は下関市、北は美祢市に接しているところです。</p> <p style="text-align: center;">山陽小野田市の災害が発生する要件として</p> <p><b>川や海が近い</b>→洪水・高潮・津波<br/> <b>地盤が低い</b> →浸水害<br/> <b>山や崖が近い</b>→土砂災害<br/> <b>地盤が弱い</b> →地震による被害などがあげられるという事です。近年の災害は、平成3年の9.27台風19号、平成11年9.24台風18号、平成21年7.15豪雨災害、平成30年7月豪雨災害がありました。</p> <p>平成11年の高潮被害では、〈人的被害〉負傷者・93名、〈住宅被害〉全壊・49棟、半壊573棟、一部損壊・513棟、床上・床下浸水443棟、また、竜巻による被害も発生、平成22年の大雨災害では、人的被害はなかったものの、半壊8棟、床上浸水441棟、床下浸水335棟等の被害があったとのことことです。</p> <p>山陽小野田市の災害時情報伝達手段は、防災行政無線〈屋外拡声器〉・広報車・自治会長、民生委員への電話連絡・市ホームページ・防災メール・防災ラジオ・テレビ(Lアラート)・ヤフー防災速報です。本市においても同じような伝達方法がとられているものですが、山陽小野田市では、防災ラジオを一台2000円で売られており、この防災ラジオは緊急情報が発表されたときに自動で起動し放送が流れるものです。(山陽小野田市にはコミュニティーFMサンサンきららがあり、そこより放送される。)これは、ホームページなどを見られない方にとっては有効な手段と思います。本市では、FM放送局がないため採用ができないのは残念に思います。山陽小野田市の自主防災組織率は、91.27%で自主防災組織の活動及び補助金の交付状況は、小学校校区11校区に10万円、自治会自主防災組織に初年度2万円+世帯数×200円、2年目以降1万円+世帯数×100円です。「自主防災組織活動の手引き」作成後の市民の反応は残念ながら反応も実施率向上にはつながらなかったものです。本市においても、自主的な活動は見られず、年に一度の防災訓練等の参加に頼っているものかと思えます。</p> <p>防災士の確保や育成についての取り組みは、資格取得者にアンケートを実施し、市に協力できると回答した人には、上限1万円の補助を行い、育成については、市内の防災士団体(2団体)の定例会に参加し、市からの情報提供や簡単な研修などを行って</p> |             |    |        |

いる。福祉避難所10施設でカバー可能な要支援者について、豪雨災害時の避難誘導計画は、福祉避難所開設・運営マニュアルに則って行っている。近年、東日本震災や熊本地震、西日本豪雨などの災害では、高齢者や障がい者等要配慮者に被害が多く見受けられ災害時における要配慮者の避難場所には、在宅、指定避難所、福祉避難所、緊急施設避難所、医療機関への入院が考えられ身体状況等の変化に応じて在宅や指定避難場所から福祉避難所へ、また介護施設等への緊急入所・入院等を図るなど適切に対応する必要があるものと思います。

様式第2号

|  |                    |    |        |
|--|--------------------|----|--------|
| 視察研修先  | 山口県下関市議会（下関市消防局）   | 氏名 | 安孫子 義徳 |
| 視察研修項目   | 消防団への入団促進の取り組みについて |    |        |
| <p>下関は、「自然と歴史と人が織りなす交流都市」をまちづくりの基本理念として、旧下関と旧豊浦郡4町（菊川町・豊田町・豊浦町・豊北町）の対等合併により新たに設置された、人口27万人を擁する山口県下最大の都市で、本州の最西端に位置し、三方を海に開かれるとともに天然の良港を有するという地理的条件にも恵まれ、九州あるいは大陸への玄関口として、古くから内外交通の要衝として栄えてきた所です。《市の鳥はペンギン、市の動物はくじら》</p> <p>下関消防団の組織は、1団・5方面隊・31分団・129部から組織されており、消防団本部を筆頭に、下関方面隊、豊浦方面隊、豊北方面隊、豊田方面隊、菊川方面隊である。団員数は、定数1,977人、実員数1,894人で充足率95.8%のうち女性は66名、本市消防団は、定数831人、実員数803人で充足率96.6%のうち女性は14名で本市の充足率が上まわっている。</p> <p>下関では、平成23年・24年度に緊急雇用創出事業として、下関消防団PRキャンペーンを実施し、消防団の存在と活躍を市民に広く認知してもらうとともに、消防団員の士気の向上を図ること、併せて消防団員の入団促進を図り団員確保を目指した。23年度には、《マスコットキャラクター》を制作、ペンギンのキャラクターで、モセキ君という（もせきとは、若者言葉で、下関の略称）。また、23年度には、コモセキ君も作成し、各イベント等で活躍。</p> <p>また、平成28年度に消防団入団促進CM放送を作成し、民間放送局にて放送をし、消防団のPRをした。CM作成では、予算削減のため、撮影スケジュールは一日、また、出演者は、消防団とその家族をお願いをした。CM放送は、平成28年10月から平成29年1月末日までとした。CMの放送効果で入団数増加などにはつながらなかったという報告でしたが、私の所見は、CMの放送効果は少なからずあったのではと思います。消防団という組織があるというメッセージを伝え、また、家族の奥さんやお子さんたちが出演したことで、家族みんなが消防団活動を支えていることも知らせることはできたのではないのでしょうか。</p> <p>私も、寒河江市消防団第一分団第一部の部長を経験させていただきましたが、家族の支えなくして活動はできなかつたと思います。そういう事もみなさんに知って頂くには、大事なことだと思います。本市消防団勧誘も年々大変になっていると地元消防団員から聞いていますが、市民の方々よりいろんな情報、ご協力を頂きながら消防団組織のさらなる充実を図っていったらいいと思います。</p> |                    |    |        |